

令和2年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和2年10月23日（金） 14:00～15:50
2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂
3. 出席者（敬称略）
 - （委 員） 岡美広、小沢拓郎、白須慶子、中村京子、安出光伸、数野雅彦、小林昭治、末木健、長澤宏昌、荻野三穂、棚橋雅一、山本直美
 - （事務局） [考古博] 高橋館長、若尾副館長、今福次長、小林学芸課長、塩谷リーダー、網倉リーダー、笠原リーダー、職員3名
[文化振興・文化財課] 河野課長、小坂井主任
4. 会議次第
 - （1） 開会
 - （2） 任命状交付
 - （3） 館長あいさつ
 - （4） 委員紹介
 - （5） 事務局職員等紹介
 - （6） 正副会長選出
長澤委員より、会長に末木委員、副会長に中村委員の推薦があり、異論がなかったため、そのように決定した。
 - （7） 議事
 - （8） 閉会
5. 会議に付した事案等について
 - 平成31年度（令和元年度）考古博物館事業実績について
 - 令和2年度考古博物館経過・予定事業について
 - 考古博物館利用状況について
 - その他
6. 議事録の概要
 - 平成31年度（令和元年度）考古博物館事業実績について
 - ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

（委員）事業実績のスライドにあった考古博物館周辺の航空写真について、考古博のPRになる良いものだと感じたが、この写真は、HP等でも目立つ配置になっているか。

（事務局）写真は存在するが、わかりにくい場所にあり、分かりやすくするよう、前向きに検

討する。

(委員) 多彩な事業を行っているが、協力会は何をやっているのか。またボランティアガイド等については育成しているか。

(事務局) イベントの手伝いや特別展の撤収復旧意外にも、県外研修や県内研修等、ボランティアガイド研修等を行っており、毎年数名ずつガイドが増えている状況である。

(委員) ボランティアがいないと成立しないイベントが多い。高い意識を持って参加してくれているボランティアさんが多い。非常によくやっている。

(委員) 協力会のボランティアだけにガイド研修を行うのではなく、学生、通訳案内士等々、周囲でガイドとして活動している団体等へも、ガイド研修等を案内がすると良いのではないか。

(議長) 協力会以外にもボランティアガイド等の要請をしたらという意見で、参考にしてほしい。

(委員) 退席前に一言イベントをたくさんやっている等の気づきがあった等の感想があった。

○令和2年度考古博物館経過・予定事業について

・冒頭事務局より説明があった。

(委員) 埋文の出張展示事業(ラザウオーク)等の参加者が増えているが、何か理由はあるか。

(事務局) ラザウオークの広告に載った以外、特別なことはしていない。参加者の多くはたまたま来た人が多い。また、事業については継続してやっており、口コミなどで広まったのではないか。

(委員) 考古博物館と周辺施設の連携キャンペーンについてさらに詳しく教えてほしい。

(事務局) 温泉施設、農産物直売所とのスタンプラリーとして始めたところである。

(議長) イベントの広報の仕方については、どのようにしているのか。また、申し込み方法はどのようにしているか。

(事務局) 広報については基本的に、チラシの配布が主である。特に学校・図書館等への配布を重点的に行っている。また、県庁記者クラブ、直接マスコミへFAX、HP、SNS等を利用している。広報については催し事の1ヶ月前から開始し、申し込みは主に電話等で受け付ける。ものづくり教室等、以前は早いもの順のものもあったが、希望者多数の場合もあるため最近では抽選とした。

(委員) 学校ではコロナの観点等もあり、ギガスクール構想というのが出てきている。考古博物館のコンテンツなどをこうした構想の中にどのように入れ込んでいくのか。

(事務局) コロナの影響もあり、実際に来館しなくても見られる HP、SNS 等の活用を進めている。また館の内容を知ってもらうための映像制作等を考えている。

(委員) コロナの影響もあり講座等が中止になっているが、WEB セミナー等が活用されている。WEB 等を使った講演会やセミナー等を検討してみるのが良いかもしれない。

(委員) コロナのため県外から来てもらうのが難しいと思われるので、ものづくり教室等のイベントを館外等へ出張して開催できないか。

(事務局) 出向いてやる体験については、職務分掌的に埋蔵文化財センターとなっており、連携して学校等へ出張している。

(委員) 古代米を使った体験が目をついた。古代米とは何か。

(事務局) 黒米等を作ったり購入したりしながら、餅として皆さんに振る舞うイベント。もともと赤米や黒米が古代米として知られており、特別に用意して対応している。今年度は、不特定多数としたイベントであったため、保健所等の対応から、中止になる可能性が高い。

(委員) 古代米はこのへんで作っているのか。

(事務局) 公園管理の職員に水田を持っている職員がおり、作付けしている。ただし作付けが順調ではない等で、購入で対応する場合もある。

(委員) イベント等については、やってみての所感をいただけると楽しい。

(事務局) 大人のものづくりではアンケートをとっていないが、子供についてはすべてアンケートを取っており、その中で所感等については整理している。

(委員) 昨年、一昨年などと比べて、感想等は変化しているか。

(事務局) コロナでの休館等を挟み、コロナ対策下の中で比較的早くから体験イベントを再開した。対策などあり利用者に不便をかける部分もあるが、おおむね順調である。

(委員) コロナ禍の中で博物館等資料をどのように見ていただくか、またそこで住んでいる人たちにとっての価値をどのように気がついていただくか、という 2 つの意味でオンラインを使って、ほかの考古博物館をつないだり、複数の博物館の出土品を見比べられるようにすると、こういう状況下でも考古学の資料等に興味が沸くと思う。

(事務局) JomonFES については単に中止とするのではなく、オンラインで 7 館が連携しての開催を模索中である。

(委員) 視覚障害の方々にとって、博物館では説明を聞いたり、触ってもらったり、匂い等を感じて楽しんでいる。触っても良いものがあれば、説明しながら触って楽しめるのではないか。

(委員) 地域活性の面から質問する。山梨県のたくさんの縄文文化をつなぐイベント等はあるか。また、考古博を中心としたつなぐワークショップ等が欲しい。

(事務局) 現在日本遺産、縄文王国山梨実行委員会等、様々な事業を行っており、継続していく。

○考古博物館利用状況について

・冒頭事務局より利用人数の実績について報告があった。

(委員) H30 と比べ、R1 については、外国人来館者数のすごい伸び率であるが、国籍の内訳等はあるか。

(事務局) 次回協議会以降対応する。

○その他

・縄文土器紛失発覚後の収蔵品管理方法について

・冒頭事務局より説明があった。

(委員) 今回の協議会では、議事について「報告事項」にあたることが多い。展示の方法や、館の雰囲気等も項目として入れたらと思うが、いかがか。

(委員) 附属機関の設置に関する条例について、「山梨県考古博物館協議会」となっており、「立」が抜けているが、これはなぜか。

(事務局) 大きな改正などがあった場合、対応する。

(委員) 古代米、田んぼアートをするとき必ず使う。田んぼアートで縄文アピール等あっても良いかもしれない。

(委員) 価値を届けていくといった時に、定量的な指標だけでなく、定性的な指標が必要となる。そのため、協議会資料については、満足度等の定性的な項目を入れて欲しい。

以上